

得点

学年		学籍番号		氏名	
----	--	------	--	----	--

問1 (各2点×5=10点)

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1	2	3	4	5

問2 (10点)

$$y = -\frac{2}{3} + \frac{4}{3}x$$

(2,2)とは、xが2、yが2の点を表す。

$y = a + bx$ として、

これに $x=2, y=2$ と $x=5, y=6$ の組み合わせを代入する。すると、次の連立方程式となる。

$$2 = a + 2b$$

$$6 = a + 5b$$

この連立方程式を解いて、aとbを求める。

問3 (10点)

売上高は客一人当たりの単価に利用客数をかけたものである。

タクシー料金が1%上がったとき、利用客数の減少が1%より少なければ、売上高は減らない。

つまり、タクシー需要の価格弾力性が1より小さければ売り上げが増えることになる。

問4 (6点 + 2点 + 2点 = 10点)

(1)	(2) 平均消費性向	(3) 限界消費性向
$C=100+0.5Y$	0.7	0.5

(1) 消費関数は、 $C=a+bY$ と表される。

この式に、表の消費と所得の組み合わせを代入する。代入する組み合わせはどの組み合わせでも構わないが、2種類必要。たとえば、所得 = 300、消費 = 250 と 所得 = 400、消費 = 300 の組み合わせを式に代入する。すると、次の2つの連立方程式が得られる。

$$\begin{cases} 250=a+300b \\ 300=a+400b \end{cases}$$

これを解けば、 a と b が得られる。

(2) 平均消費性向は、所得に対する消費の比率。所得が 500 のとき、消費は 350 なので、 $350/500 = 0.7$ となる。

(3) 限界消費性向は、所得の増分に対する消費の増分。この消費関数の場合は一定で、消費関数の b が限界消費性向を表す。

表から所得の 500 から 600 に増えたとき (100 の増加)、いくら消費が増えるか (350 から 400 なので、50) を計算しても出てくる。所得が 100 増えて、消費が 50 増えているので 0.5。

問5 (10点)

$$W / P = Y / N$$

問6 (10点)

$$100 \text{ 円}$$

レジュメにあるように、

割引現在価値 = 1年後の値段 / (1 + 利率)

である。

割引現在価値 = $105 / (1+0.05) = 100$

問7 (10点)

750

GDPは3面からみて等しくなる。

3つのGDPが一致するとき、 $Y_d=Y_s$ となるはずなので、

$$300 + 0.6Y_1 = Y_1$$

である。

この式を計算すると、 $Y_1=750$ となる。

問8 (5点×2=10点)

A	B
5.2	12

rとYに関する連立方程式を解く。

rの解がA, Yの解がBとなる。

問9 (5点×2=10点)

(1)	(2)
$y=6+0.5x$	12

(1)

切片が2に4を加えた6となる。傾きは変わらない。

(2)

$$\begin{cases} y=6+0.5x \\ y=x \end{cases}$$

の2つの式の連立方程式を解く。

問10 (10点)

限界効用とは、あるものを1単位追加的に消費したときに、追加的に得られる満足感(効用)のことである。

1個目のケーキの満足感は大きい、2個目で得られる満足感、3個目で得られる満足感は次第に小さくなっていく。これが限界効用逓減の法則である。